

1000年先の未来へ。
美しい里、豊かな海



かがわ里海大学2021 ステップアップ講座

一から学ぶ海ごみ講座

開催しました!



- 日 時 令和3年7月17日(土) 10:00~12:00
- 会 場 交流の里おうごし
- 講 師 森田 桂治氏 (NPO法人アーキペラゴ理事)
講師アシスタント 田中真利子氏 (かがわ海ごみリーダー)

7月17日土曜日、交流の里おうごしで、かがわ里海大学2021ステップアップ講座「一から学ぶ海ごみ講座」を開催し、16名が講座に参加しました。講師に、NPO法人アーキペラゴ理事の森田桂治氏、講師アシスタントにかがわ海ごみリーダーの田中真利子氏を迎えて講座を開催しました。

この講座は、実際に海岸にどんなごみが落ちているのかを拾い集めて、どのような海ごみが瀬戸内海に存在するかを調べ、瀬戸内海のごみの現状を考察する目的で開催しました。

まず最初に王越付近の海岸でフィールドワークを行い、グループに分かれてごみを回収しました。一見ごみは少なそうに見えましたが、海岸に生息する植物に紛れて多種多様なごみがあり、ごみ袋はすぐに満杯になりました。





その後、拾ったごみを大まかな種類に分類して、どのようなごみがあるか調べました。この中でペットボトルは、キャップ付きのものは海に浮かぶのでごみとしてよく見かけるが、キャップやキャップがないボトルは海底に沈んでしまうことが多いと説明がありました。またカキの養殖で使用されるパイプも発見され、漁具が流されて発生するごみがあることも説明がありました。



海岸でのフィールドワークの後、交流の里おうごしに戻り、スライドでの説明がありました。海外の島に流れ着いている海ごみは日本から流れたものも多く、知らない間に海に流れて世界中を巡っていることなどが解説されました。

オットセイやウミガメなどが、網などの海ごみに巻かれる「からまりの問題」については、実際に網を被ってみて、逃れることは難しいということを経験しました。

人間は手や指などを動かして逃れることができるが、動物にとっては非常に困難で、命を落とす動物も多いと解説がありました。



また、近年問題になっているマイクロプラスチックについても説明がありました。実際にマイクロプラスチックを用いて、分類を行いました。プラスチックの原料や人工芝の破片、また農薬のカプセルなど様々なものがありました。長期的にこれらのプラスチックが自然界に存在する化学物質を吸着しつづけると多くの動物に影響が出ることが懸念されると説明がありました。身近な生活用品に用いられる多くのプラスチックについて、将来に向けて使用方法を考えていかなくてはならないと改めて感じた受講者も多かったようです。